

2025年スプリング・インターンシップテーマ一覧

	教員氏名（職名）	日程	実施場所	定員	テーマ名	研究内容	研究室URL等
1	狩野泰則(准教授) 小島茂明(教授)	3月29日(土)から31日(月)までの3日間	大気海洋研究所（柏キャンパス）	6名	超深海動物の分布を探る	水深6500m以深の超深海にみられる底生動物(ベントス)種は、どのような深度・水平分布をもち、また何がそれらの分布を規定するのか？日本海溝・千島海溝で得られた貝類試料についてDNA配列取得と形態解析を行い、この謎に迫ります。	
2	小畑 元（教授） 乙坂重嘉(准教授)	3月17日から31日までの間の1～2日間、日程は希望者との協議の上、多少移動することも可能。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	5名	海水及び海洋粒子中の微量元素・同位体分析	海洋における微量元素・同位体の循環についての基本的な知識を学習するとともに、分析法について、実際の分析装置を使用しながら実習を行う。	http://co.aori.u-tokyo.ac.jp/mic/
3	兵藤晋(教授) 神田真司(准教授)	3月後半あるいは4月上旬の連続する3日間の予定。日程は希望者と協議の上決めます。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	5名	魚類のホルモン制御機構の細胞～個体レベルでの解析	サメやメダカなどの魚類を用いて、エコー検査や解剖観察、血中ホルモン濃度の分析、遺伝子組み換え技術・神経・内分泌細胞のリアルタイムイメージングなどを通して、魚類のホルモンを研究する手法を学ぶ。	http://physiol.aori.u-tokyo.ac.jp/seiri/
							http://physiol.aori.u-tokyo.ac.jp/kanda/
4	沖野郷子（教授）	3月初旬～4月初旬までの2～3日間、日程は希望者との協議の上、多少移動することも可能。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	3名	海底地形と地震分布からプレートテクトニクスを考えよう	プレートテクトニクスの概要について学んだ後、興味を持ったプレート境界域を選んで海底地形データ・地震分布・メカニズムなどをGISソフト等を利用して調べ、テクトニクスの理解を深める。	http://ofgs.aori.u-tokyo.ac.jp/~okino/
5	佐藤正樹（教授） 宮川知己（准教授） 大野知紀（助教） Woosub Roh（特任助教）	2025（令和7）年3月～4月初旬の期間の間の2日間、日程は希望者との協議の上、決定します。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	6名	全球非静力学大気モデルNICAMによる数値実験	全球非静力学大気モデルNICAMの方程式系・差分法・構造の理解、およびNICAMを用いた台風等の数値実験、解析を行う。	https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/satoh/index-j.html
							https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/nicam/index.html
6	伊藤幸彦（准教授） 小松幸生（准教授） 伊藤進一（教授）	3月31日(月)～4月1日(火)の2日間（日程は希望者との協議の上、多少移動することも可能）	大気海洋研究所（柏キャンパス）	5名	地球温暖化の海洋生物への影響を数値モデルを用いて探る	地球温暖化が進行する中、魚類はどのような影響を受けるのでしょうか。多くの魚類について、産卵場や回遊様式は未だ未知な部分が多く、数値モデルを用いて地球温暖化の影響を評価する実験を体験します	https://lmr.aori.u-tokyo.ac.jp/feog/ito/index_internship.html
7	横山祐典（教授） 黒田潤一郎（准教授） 平林頌子（講師） 宮入陽介（特任助教）	令和7年3月26日～3月31日のうちの2日間。参加者の希望等を勘案して決定します。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	8名	現在と過去の地球環境と生物の科学	現在および過去の環境やその環境動態の研究について学習するとともに、地球科学的試料を用いた化学分析実習や、肉眼、顕微鏡による観察実習を行う。	
8	西部裕一郎（准教授） 高木悠花（准教授） 平井惇也（講師）	3月24日～3月27日までの連続する3日間。日程は希望者と相談の上で決定します。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	4名	海洋動物プランクトンの多様性と群集構造を探る	海洋動物プランクトンの多様性・群集構造についての基礎的な知識を習得するとともに、野外試料の顕微鏡観察とDNAバーコーディングに基づいた群集構造解析を行い、一連の研究手法を理解する。	